

武實録

二

自元和五巳未年  
至同八壬戌年

475  
1.887  
2



門 4 5  
號 1887  
卷 2



東武實錄卷之五

元和五年 自正月  
至七月

正月

一 朔日 江戸ノ城歳旦ノ賀儀例ノ如ク

諸士参賀

一 七日 中西伊豫守元安卒

一 十四日 土岐山城守定義卒 四十歳

二月

一 十日 被仰出御制法

除

一 武士の向く清の誠も不及十中為小夫よむる  
また一 孝居一切不て抱念事

附一 孝居清く不て立但傳忠の才を

く不て善事

一 人賣買一切清く善くするの事  
一 徳をさくち誠も死罪成る事  
一 命をさくち誠も死罪成る事

一 命をさくち

身口入善と同罪の事

一 命をさくち事  
一 命をさくち事  
一 命をさくち事  
一 命をさくち事



一切の事

一 命をさくち事

一 命をさくち事

一 命をさくち事

一 命をさくち事

一 命をさくち事

一 命をさくち事

一 命をさくち事

一 命をさくち事

一 命をさくち事

元禄五年十二月十日

覚

一 暇ふらふらして白鳥はくちあふふおふふらふら  
は陣の上活らくさるるはくちあふふおふふらふら  
は陣の上活らくさるるはくちあふふおふふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら

一 白鳥はくちあふふおふふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら

一 白鳥はくちあふふおふふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら

一 白鳥はくちあふふおふふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら  
とふらふらとふらふらとふらふらとふらふら

カキタ  
三月廿一日  
三月廿一日

三月廿一日

三月

一十八日 細川玄蕃頭貞元 兵部大輔 卒

ス五十七歳其子興昌 後玄蕃頭 父興元カ

家督シ續

一是月酒井宮内大輔忠勝越後國高田城

采地十萬石シ轉シ信州松城ヲ賜ル 地領

貞數元ノ

高田ノ食邑二十四萬石松平伊与守忠

昌 權中納言秀三 賜ル時ニ 公稻葉佐

渡守正成ヲ 召テ命有テ曰汝麾下ニ

奉仕ス然ルニ今忠昌弱手ニシテ大祿

ヲ給國政ヲ安堵セズ正成老成人人々

リ忠昌ニ副テ高田ニ赴キ國勢ヲ議ス

ヘシ然ラハ正成高田ニ在ト云ヘ臣猶

幕下ニ在ル如クナラン久ク高田ニ置

クハカラサルノ由 御旨ヲ蒙ル時ニ

越後國系井川ニシイテ食邑一萬石シ

正成ニ賜ハリ忠昌ニ從テ高田ニアリ  
 是春 公松平陸奥守正宗力宅ニ渡  
 御アリ先數寄屋ニ入御御茶過テ後  
 廣間ニ出御猿樂 上覽有正宗ニ賜フ  
 モノ數多シ其子美作守忠宗後陸奥守任スニ  
 御腰物包永賜ル四月十六日松平源太  
 良正村壹岐守正始テ公ニ謁ス  
 一廿日 秋田伊豆守俊季城助實公ノ  
 釣命ヲ奉テ河内守ニ改ム  
 高田五月廿二日

一八日 公御上洛トシテ江戸城御首途  
 アリ御首途  
 是日本多清兵衛正次家光公ニ謁ス  
 一十五日 御上洛

一 尾張ノ内ノ町ノ人ノ事ニ至リテ是ノ事ハ  
 中世ニ至リテ格段ノ事ナリト云フ事ニ至リテ  
 古上多也

是月 公御上洛

六月

一 福嶋左衛門大夫正則議御制法肖 = 依  
 于安藝備後二州シ没收セラル信州河  
 中嶋 = 謫セラル其子備後守忠勝同州  
 = 配流同年忠勝配是時 公伏見 = 御  
 在城アリ久世三四郎廣宣坂部三十郎  
 一 廣勝シ兩使トシテ江戸 = 赴ムカシム  
 時日 命有テ曰汝等江戸 = 至テ正則  
 = 御旨ヲ告クヘシ若シ正則 冥儀 =  
 一 及ハ、松平下總守忠明松平式部太輔

一 忠次鳥居左京亮忠政奥平九八郎最上  
 源五郎義俊等兵ヲ殺シテ是ヲ誅伐ス  
 へシ 御謀畧ノ 御書ニ通シ以テ手  
 カラ久世坂部 = 賜ル且ツ奉書シ持メ  
 江戸 = 馳ス福嶋左衛門大夫正則 = 賜  
 此奉書ノ趣キ

今度廣嶋等所シテは皆御法度ニ依ル  
 思ふに或は地ニ或は御旨に依り  
 指在凡そ御旨ニ依りて御旨に  
 依りて上は御旨に依りて御旨に





沼井維業 二世

沼井左馬守

一公ノ 台命ヲ奉テ酒井忠世本多正純  
土井利勝板倉勝重安藤重信等牧野駿  
河守花房志摩守幸家ニ三ヶ条ノ書付  
シ遺ス

於國費

一左馬守是清沼井沼井之河守補在沼井  
廣治ノ事

一沼井左馬守之河守補在沼井

一今沼井左馬守之河守補在沼井  
以右ノ如ク運送シテ其家中之輩妻子家  
族未相違シテ在沼井

六月九日

久ノ 右ノ左文右

沼井左馬守  
沼井左馬守

一久世三四郎廣宣坂部三十郎廣晴兩使  
トシテ江戸ニ至テ諸將ヲ集メ 台命  
ノ趣ヲ告ル是ニ依テ牧野忠成花房幸  
家二人福嶋左衛門太夫正則カ江戸ノ

宅愛宕山麓ニ赴キ奉書正則ニ渡シテ  
御旨ヲ告テ曰ク公儀ヲ窺スニテ廣  
嶋ノ城新ニ石碁ヲ築キ城地ヲホリ其  
郭内ヲ繕フテ大神君ノ御遺法ヲ背  
キ其罪遁レカタニ早ク二州ヲ捧テ城  
ヲ渡スヘシ其身江戸ニアリ廣嶋海陸  
數百里隔遠境ニシテ其意通シ難シ書  
翰ヲ以テ廣嶋ノ城ヲ避ケ渡サンコトヲ  
城ヲ守ル家人等ニ申遣スヘキノ旨兩  
使是ヲ演ル正則又儀ニ及ス命ニ從

ヒ國ヲ退キ城ヲ渡スヘキノ旨ヲ手書  
シ以兩人等ニ遺ス江戸御留守君ノ諸  
將等兩使ト相議テ正則若矣變ノ儀了  
ラハ速是ヲ誅伐スヘシト兵ヲ集メテ  
正則カ宅地ヲ圍ト云ヘ正則命ニ應  
シ異儀ナキニ依テ其事ニ及ス正則改  
易ノ夏ニ依テ家光公ヨリ難江甚右  
衛門和甫後越前守忠長主ヨリ本多新七  
郎御使トシテ江戸ヲ發シ伏見ニ趣ク  
時ニ伏見ニ於テ甚右衛門和甫台命

二 依テ 鯨江シ 改テ 宮城ト 号ス 永井右  
近太夫直勝安藤對馬守重信安藝備後  
二州シ 請取 上使トシテ 伏見シ 祭シ  
藝州ニ 趣ク 加藤左馬助嘉明毛利甲斐  
守秀元安藝備後兩國ノ 地利シ 知ニ 依  
テ 直勝重信ニ 差シ 添ラ 且 其外南海山  
陽諸將シ 相向ケラル 時ニ 御朱印シ  
諸將ニ 賜ル

條

一 今度 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

法事 上使 工部 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

一 得ニ 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

一 喧嘩 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

一 今度 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

一 百姓 男女 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ 且 兵部 人 被シ

并指二相其甚也  
右屋ておちて有也

元和九年六月十日

加多左衛門  
兼左衛門  
松平左衛門  
松平左衛門  
松平左衛門  
松平左衛門  
松平左衛門

一十九日 川井平太夫久吉卒六十三歳  
一福嶋正則 台命ニ從ヒ備藝二州廣嶋  
ノ城ヲ退キ渡ヘキノ昔家人等ニ云ヒ  
遺ス手書牧野主馬助東條伊豆守是シ  
持シテ藝州ニ赴ク時ニ中川半左衛門  
渡辺半四郎二人ヲ 上使トシ牧野東  
條ニ差副ラル備藝二州ノ檢使永井右  
近太夫直勝安藤對馬守重信ニ奉書シ  
賜ル  
一安藝河後國禪退ノ旨福嶋左衛門久吉ノ遺書

以爲中井之別故其之馬龍分廣瀨爲龍水城  
東條河原也

一 之系城池田浦中島山岩甲斐也 此井之同

惟不及十之法治及之遠以之極堅之木城

一 廣瀨水之入板依地形之形不城濠一二里

池引進之水其形亦如人之心形一城中清池

一 上書不月斗者皆之有全

一 松平長門守城尾山城之人板之有之長陣車

一 于之入之法也相誤之於不入人板之有全因

法歸之也

右之旨也 上之旨也 此合中川

古之旨也 中井之旨也

六月廿日 古井ノ城 利祐

古多之井也 此

酒井維業也 此世

古友對馬也

永井右近也

一 廣瀨川廣瀨城清池之法也及此井之口捕

古多維也分也中井之九二九井在者古多

古也

定

一 法為喜子 在法遠具河 此地 亦存 亦以 亦  
二 川 鐵 車

附 自 然 之 氣 亦 能 濟 害 之 厄  
亦 切 之 也

一 町 中 以 法 遠 具 河 之 水 亦 能 濟 害 之 厄  
右 近 亦 是 以 之 相 法 亦 能 濟 害 之 厄

一 若 須 以 法 遠 具 河 之 水 亦 能 濟 害 之 厄  
一 法 遠 具 河 之 水 亦 能 濟 害 之 厄

一 安 藤 對 馬 守 永 井 右 近 太 夫 備 中 國 笠 岡

六月廿二日

永井大炊頭 利信

永井上村 正純

永井維繁 忠世

安藤對馬守及

永井右近守及

一 安藤對馬守永井右近太夫備中國笠岡

二 至 于 使 之 廣 嶋 二 祭 之 城 之 退 亦 渡 亦

八 之 昔 之 福 嶋 力 家 人 等 二 云 遺 亦 時

二 正 則 力 從 士 吉 村 又 右 衛 門 大 橋 茂 左

衛 門 輕 卒 百 余 人 各 鉄 炮 之 持 卒 二 隱 戶

ノ瀬戸ニ廣嶋ヨリ出向上使安藤重信  
永井直勝釣命ヲ演ル吉村大橋言テ云  
ク台命敢テソムクヘカラス然ト云  
廣嶋ノ城ヲ守諸卒等城ヲ退散スヘキ  
ノ旨正則カ書シ一覽セスニハ台命  
ニ從ヒカタキ由ヲ申スノ旨シ云フ  
使聞テ正則ハ武州江戸ニ在テ遙ニ數  
百里ノ海陸シヘタツ今是旨シ云ヒ遺  
ストモ速ニ通難シ幸ニ正則カ嫡子備  
後守忠勝京師建仁寺ニ旅宿ス江戸ヨ

リ京ハ其近丁百余里ナリ忠勝ニ是ヲ  
云遺サハ彼カ手書廣嶋ニ至ルヘキ丁  
疾カラシ大橋吉村是ヲ聞テ云ク備後  
守忠勝ハ最モ正則カ嫡子タリト云  
未タ其家督ヲ受ス是ニ依テ安藝備後  
二州ハ今正則カ領國ニシテ忠勝ハ未  
タ領知セス然ニ其領主ヲサシキ忠  
勝カ手ヲ以テ證文トシテ兩國ヲ上使  
ニ渡スヘキニ非ト云テ廣嶋ノ城ニ指  
箆リ防戦シ遂ケント促ス城ヲ守ルノ

兵士等統テ四千余人是外三原城ハ握  
田出雲守是シ守<sup>ル</sup>三吉城ハ尾関監物  
是シ守<sup>ル</sup>鞆ノ城ハ大崎玄蕃是シ守<sup>ル</sup>  
神達ノ城ハ福嶋丹後是シ守<sup>ル</sup>東<sup>此印ノ如ク同印シ付テ見</sup>茶<sup>ノ</sup>  
城ハ長尾隼人は是シ守<sup>ル</sup>東使重信直勝  
及ヒ此地ニ集ル諸將等既ニ兵ヲ斃ツ  
シテ城ヲ改<sup>ン</sup>ト欲ス廣嶋ノ城ヲ守<sup>ル</sup>  
弱兵等多勢城圍ムコトシキク是ヲ臆  
シテ狭間ヲク<sup>リ</sup>堀ヲ乘<sup>リ</sup>越ヘ城外  
ニ北ケ出<sup>ル</sup>者七十三人牧野右馬助東

茶伊豆守二人正則カ手書シ持<sup>シ</sup>テ廣  
崎ニ至リ安藤重信永井直勝等伏見ヨ  
リノ御下知<sup>シ</sup>聞テ牧野東條シ二人  
城ニ入<sup>ル</sup>、城ニ籠<sup>ル</sup>所ノ諸士正則カ  
手書シ披見スルニ安藝備後兩國辞退  
ス二州ノ城々速ニ退キ渡スヘキ旨也  
是ニ依テ正則カ家人等異議ナク城ヲ  
退キ又備藝二州ノ諸城両使是シ請取  
ル廣嶋ニ滞留スル<sup>テ</sup>二十日余二州ノ  
<sup>テ</sup>沙汰<sup>シ</sup>畢<sup>リ</sup>テ歸路ニ趣ク



一同廿四日 松平宗兵衛忠貞 主殿 外家 忠力 二男  
伏見ニ於テ卒ス三十二才

七月

一二日 福嶋左衛門大夫正則始ハ津輕  
ニ配流セラル、ノ旨ニテ彼地ニ於テ  
食邑四万五千石賜ル所ニ其所ヲ轉セ  
ラレ越後信濃二州ニ於テ食邑ノ負數  
津輕ノ如ク給リ配取リ信州河中島ニ  
了ラタメラル時ニ奉書リ正則ニ給ル  
一筆々破上ノ津輕ニ為食邑ノ為沼井

之也捕物師造也右方人知事不近取以  
討修ニヨリ石ノ下ニトク旨也

作事要細ナキ事ノ方トナシテ造ノ旨也  
忠力ノ是レハ之ノ一トナシ

七月二日

大井大炊以利給  
女多上野分上地  
沼井維業以忠世

油清右進宗友

一廿一日 是年國々國替ニ依テ 仰出  
廿二、趣

由留條

- 武具之不足及之留地之取也
- 竹木一切之取也
- 先納之
- 種尾
- 加
- 借
- 東進
- 東進
- 東進

一 壬午 切取

初

切取

元和九年七月廿日

- 是日 嶋津兵庫頭義弘 卒 八十五
- 才時 薩摩守家久 後大隅守 京師 在
- 暇 賜 薩州 歸國
- 廿二日 福島正則 配所ノ領地ヲ轉セ
- ラル 依テ重テ奉書ヲ賜ル

皇夜十入名... 作紙... 日向... 上... 我... 皇... 皇...

七月廿一日

大井大炊頭

板倉伊賀守

上杉...

沼井...

湯嶋左馬頭

一廿八日 台命ヲ奉テ安倍四郎五郎正  
之大久保四郎左衛門忠成後玄蕃頭肥後  
日向兩國境推葉山名郡ニ赴カント欲  
ス是山嶮難ニシテ性還安カラス其通  
相良左兵衛長每カ所領球麻郡肥後國内  
ヲ路アリ是ヨリサキ豊臣秀吉朱印シ  
彼山中那須久太郎同紀之助同左近ニ  
賜ル三人ノ輩毎年使ヲ以テ俊鷹献ス  
其後 大神君天下一統ノ時又 御朱  
印ヲ賜テ山中無事ナリコトニ於テ那

須彈正ト云モノアリ山中ニ蜂起シテ  
其黨シ促シ久太郎ヲ殺ス是ニ依テ山  
中大ニ乱ル相良左兵衛長每是事シ屢  
伏見ニ註進ス執事奉行人等是シ  
台聽ニ達ス時ニ老臣等シ召テ彼山  
中徒黨ノ者シ誅戮ノ了シ評議アリ安  
倍四郎五郎正之先年肥後國ノ檢使ニ  
赴キ彼取ノ了シ相知ニ依テ正之シ  
召テ是シ問ヒ給フ正之九ヶ条ノ謀畧  
シ記シテ是シ献ス公是シ台覽有

テ土井大炊頭利勝ニ命有テ曰ク頃日  
ノ評議可ナラス正之彼所ノ地利シ知  
テ云フ取シ御許容アルヘキノ御旨ア  
リ是ニ依テ安倍四郎五郎正之大久保  
四郎左衛門忠成シ両使ニ定メラル  
命有テ曰ク両使彼地ニ至テ相良長每  
カ兵シ用ユヘシ若多勢シ促ス了アラ  
ハ有馬左衛門佐直純又肥後薩广ニ告  
ヘシ其餘豊後日向ノ兵士皆汝等カ意  
ニ任セ指揮スヘキノ旨台命シ蒙ル

東武實錄卷第六

元和五年己未年 自八月至

八月

- 一朔日 推葉山 西使安倍四郎五郎正之
- 大久保四郎左衛門忠成 今日伏見シ
- 之テ九州ニ赴ク
- 一四日 水野日向守勝成和州郡山ノ城
- 采地六万石シ 轉シテ備後國福山邑十
- 万石賜ル 公役シシテ新ニ城シ築テ
- 是ニ居ラシム

一七日 推葉山ノ西使正之忠成豊州ニ  
至ル  
一十四日 推葉山ノ西使相良左兵衛佐  
長每カ居城未麻ニ着ク豊州ヨリ先立  
テ書ヲ推葉山ニ遺シテ云ク西使  
釣命ヲ奉テ山中ノ訴論及ヒ鷹ノ罾田  
畠等ノ事ヲ沙汰スヘキノ由ニテ其地  
ニ赴ク然ル所ニ山中峻難ニシテ人馬  
ノ通路自由ナラス故ニ其地ニ至テ沙  
汰セテ事了スハス山中十五歳ヨリ以

上六十歳以下ノ者速ニ未麻ニ来ヘキ  
ノ者ヲ云ヒ遺ス山中ノ惡徒等其謀畧  
ヲ察シテ是ニ應セス難所ヲ要害ニ構  
テ是ヲ守ル西使再ヒ書ヲ推葉山ニ遺  
シテ曰ク台命ニ從申サル者ハ兵  
ヲ山中ニ登シテ悉ク誅伐スヘシト云  
フ是ニ於テ一揆ノ本人那須彈正其黨  
三十余人山中ヲ出テ未麻ニ赴ク  
一十五日 亀井豊前守政矩伏見ニ於テ  
卒 三十才

一十八日 山中ノ悪黨等未麻ニ到ル人  
在テ先達テ是ヲ両使ニ告ル 両使竊ニ  
人数ヲ遺シテ彼レ等カ帰道ヲ差シ塞  
キ悪徒等ヲ謀テ招キ集メ其刀劔ヲ脱  
カシメ是ヲ搦捕ノ朱印ヲ賜ル者ノ一  
揆ノ徒黨ヲ分テ二隊トシテ其夜竊ニ  
一揆ノ悪徒等十九人ヲ斬罪ス  
一廿三日 夜半ニ及テ大久保忠成安倍  
正之未麻ヲ登シテ推葉山ニ赴ク山中  
ニ入ル道三筋アリ是ニ依テ兵士ヲ三

隊ニ分テ是ニ赴ク其道峻岨ニシテ山  
高ク道細シ或ハ葛蔦ニ取ツキ或乃ヲ  
負テ攀上ル若シ路ヲ誤ル者ハ忽深谷  
ニ陥ル漸ク四日ヲ経テ推葉山ニ至リ  
山中二十六村ノ男女一千余人ヲアツ  
メ其名ヲ記シ是ヲ搦捕リ其邪正ヲ分  
テ悪徒ノ者百四十余人是ヲ誅戮ス女  
子自殺ノ者ノ始二十人コトニ於テ朱  
印ヲ賜ル族ニ大ニ悦テ山中悉ク安堵  
ス

一廿九日 嶋津兵庫頭義弘去月廿一日

卒スルニ依テ薩六國ニ上使トシテ

花房五郎左衛門戦利ヲ遺ハサル時ニ

御書ヲ薩六守家久ニ下サレ白銀千枚

ヲ香奠ニ賜ル

山定去死々々旨ニ是非仕分ハ厚々秘々

一 徳々香奠浪子子校也ハ花房五郎左衛門

細々述々不詳々々

八月廿一日

新六合通量松平藩厚々度

一 花房是持シテ薩州ニ赴ク十月六日薩

州ノ地ニ着クト云ヘク洪水ニ依テ滞

留シ才日鹿兒嶋ニ至ル

九月

一 二日 推葉山ノ両使山中ヲ出テ日向

國細嶋ニ至リ是日船ヲ登シテ伏見ニ

赴ク

一 十七日 春日祭礼社役事ニ依テ中坊

尤近及ヒ春日役者中ニ奉書ヲ賜ル

春日祭礼社役事不順候ハ村本五郎子子





二万石ヲ改遠州濱松ノ城食邑三万石  
賜外ニ寛永十一年  
是月朱印シ金地院ニ賜ル

定

一 任之如元年七月之判ノ旨麻苧薩涼ノ法  
修及出世ノ旨實ノ儀式未嘗同規也先

判之如法也

身是也又少年已未九月日

令也

一 十月

一十五日

竹千代君御任官ノ事忠長頼房官位

勅許ニ依ニ御礼トシテ大澤少将基宿

兵部御使トシテ京師ニ赴ク時ニ

禁裏工御太刀一腰白銀五百枚

國母御方工白銀二百枚献セラル

竹千代君任檢大細之儀

歳ニ奉命法合ニ介ノ人任官同奉命ノ儀

カガヒノ一腰浪子ノ百枚之儀

奏達ノ程大坂ノ御方ニ御禮ノ儀

十月十日 津澤

廣橋友

三條友

此の多む計り代々のゆゑに友方のゆゑ

はともされし事なるにせむしにせむしにせむしに

禁固舟をいふ事なるにせむしにせむしにせむしに

りりし事なるにせむしにせむしにせむしにせむしに

しりし事なるにせむしにせむしにせむしにせむしに

十一月十日 津澤

向ふ側なる

一 是月松平大隅守重勝下総國関宿ノ城

食邑二万六千石ヲ轉テ遠州横須賀ノ

城ヲ賜リ領地真數駿河國府ノ城ノ城

代トナル渡辺山城守茂大御組ノ士ヲ

引テ駿府ノ城番ト成其子監物忠山城

養子実戸田与五右衛門男別ニ采地千石ヲ賜テ山

城守ニ差副ヘラレ父ト同ク駿府ノ城

ヲ守ル

是月小笠原左衛門佐政信総州古河ノ

城采地二万石ヲ轉シテ同國関宿城食

邑二万七百萬石賜ル

同 奥平九八郎後美作守任ス下野國宇都宮

城采地十萬石ヲ轉シテ下総國古河ノ

食邑十一萬石賜ル

同 酒井雅樂頭忠世上州里見ニ於テ

采地一萬石加賜セラル

同 酒井備後守忠利武州ノ内ニテ食

邑一萬石加賜セラル統テ三萬七千石

ヲ領ス

長田平四郎句久金平句久公ニ

一 五日 長田平四郎句久金平句久公ニ

奉仕ス

一 十一日 松平市太夫忠次卒四十才

一 十三日 大村民部少輔純頼卒二十才其

子純信後因幡守任ス父純頼カ家督賜ル

一 是月 公東金所々ニ御放鷹アリ下総

國市川ニ於テ鉄炮ヲ放テ給テ雁ニ中

ル時ニ浅原又三郎是ヲ捕ラント水ニ

入忽キニ凍死ス 公是ヲ憐ニ給フ

家光公ヨリ御使トシテ土井左兵衛正

次後三浦東金ニ赴ク 台命ニ依テ内

藤左馬助政吉東金ニ供奉ス時ニ政長

ヲ御旅館ニ召テ采地五千石加賜セ

ラル御殿指重則政長ニ賜ル

十二月

一十二日石川四郎兵衛重久卒ス二十八

一廿六日 沖土三の條自修

一人をかくり賣いとの死罪あり

一人を買丸とれり之を賣いとの百日の籠舎

とよとよ好とる限を設て十掛とあるもの

死罪事

一人賣買の制禁し之を能く改治代成家子賣

あるは社賣人買入は双子とて別賣とす

とよとよ好とる限を設て十掛とあるもの

一人を買丸とれり之を賣いとの百日の籠舎

とよとよ好とる限を設て十掛とあるもの

一人賣買の制禁し之を能く改治代成家子賣

あるは社賣人買入は双子とて別賣とす

一人賣買の制禁し之を能く改治代成家子賣

あるは社賣人買入は双子とて別賣とす



然上流ノ事ニ  
 於テ叶ヒ流人ノ如ク  
 流人ノ如ク  
 主ノ人ナリ  
 一 貞節ノ志地不中ニ  
 一 故ノ事ニ  
 一 福ノ事ニ  
 一 公侯ノ事ニ  
 一 夫人ノ事ニ  
 罪事

右ノ事ニ於テ  
 極月ノ事ニ

- 一 晦日 鍋嶋元茂 信濃守勝元 從五位下
- 叙紀伊守任ス
- 一 是月 細川越中守忠興 參議從三位 刺髮シテ
- 三 齋卜号
- 一 同 遠山久兵衛友政 卒ス 六十四才
- 一 冬 坂部三十郎廣勝 與力ノ月俸卜シ
- テ上總國大多喜領ニ於テ采地二千石
- 賜ル

一冬 龜井豐前守政矩男大刀 後能登守 茲政ト云

父政矩カ家督ヲ賜ル時ニ三才

一是月隻ヨリ冬ニ到テ東南ノ雲間ニ夜

毎ニ白氣アリ牛角ノ如ニシテ數十丈

又彗星火炎ノ如ク東北ニ有リ

一是年真田信政 伊豆守 信幸男 從五位下叙之内

記ニ任ス

一同 中納言頼宣郷家臣安藤帶刀直次

水野對馬守重仲等願ヒ訴テ云ク 頼

宣郷ノ領國シ他所ニ改メ轉セラルルハ

キヲシ請フ執夏等此事ヲ公ノ台聽

ニ達ス 命有テ云 頼宣今領スル所ノ

駿遠ニ州ハ是 大神君ノ御賢慮有テ

頼宣ニ給置所ナリ何ヲ我今是ヲ改メ

シ直次重仲等重テ誓詞ヲ呈シテ訴テ

云ク頼宣頻リニ是ヲ願フ全ク私ノ旨

ニアラサルノ由シ言ス此事福嶋左衛

門太夫正則安藝備後西國ヲ除カル是

ニ依テ紀伊國采地三十七万石ヲ轉テ

安藝及ヒ備後半國四十万六千石餘ヲ



浅野但馬守長晟ニ賜リ廣嶋ノ城ニ居  
ラシム爰ニ於テ 頼宣郷請ニ任ス駿  
河遠江二州ヲ轉テ紀伊國及ニ勢州ノ  
地ヲ副ヘ頼宣ニ賜ル食邑五十五万五  
千石其數ニ足ル  
一同 青山伯耆守忠俊武州岩付城食邑  
四万五千石賜ル  
一同 本多上野助正純ニ下野國宇都宮  
城佐野江州ノ地統テ食邑十五万石賜  
ル

一本多出羽守正ニ采地一万石給ル  
一同 井伊掃部頭直孝ニ江州ノ地五万  
石加賜ル  
一同 松平下總守忠明攝州大坂ノ城采  
地十萬石ヲ改メ和州郡山ノ城食邑十  
二万石賜是ニ依テ内藤紀伊守信正大  
坂ノ城代トナル 是ヨリ先キ爰ニ於テ  
伏見ノ城代トナル  
伏見ノ城番止テ大坂ノ在番始ル松平  
豊前守勝政松平石見守康安 二人共ニ  
大番頭  
組ノ士ヲ引テ此年ヨリ大坂ノ城ニ在

番ス 是人宛 是年ヨリ後大御番頭二

一同 松平越中守定綱下総國下津間庄

シ改メ遠州掛川ノ城佐夜郡原ノ庄曾

我在食邑三万石賜ル 元領地負數

一同 小出大和守吉英和泉國岸和田ノ

城采地五万石ヲ改メ但馬國出石ノ城

ヲ賜ル 元領地ノ負數

一 是年松平周防守康重卅州篠山ノ城采

地五万石ヲ轉シテ泉州岸和田城ヲ賜

一領地負數元ノ如ク後檢地高

一 松平安房守信吉 伊豆守信一養子 上州

高崎ノ城采地五万石改メ丹波國篠山

城ヲ賜ル 元領地負數

一同 安藤對馬守重信下総國小見川食

邑三方五千石ヲ轉シテ上州高崎ノ城

采地五万三千石ヲ賜ル

一同 古田大膳大夫重治勢州松坂ノ城

采地五万五千石ヲ轉シテ石見ノ國濱

田ノ城ヲ賜ル 元領地負數元ノ如ク内五

ハ丹波國ニテ賜ル

一 同 丹羽五郎左衛門長重ニ食邑一万石加賜セラルル慶長五年通長重石田三成遊ノ身トナル翌年江戸愁訴ス来テ芝ノ邊ニ開居ス赦ノサセテ給ハス一且敵對ノ舊約ヲ忘レサセテ麾下ニ賜リ今又古渡ニ於テ食録一萬石ニ賜リ今又石ノ城采地三萬石シ改メ丹波國園邊ノ城食邑三萬石賜  
 一 同 青山大藏大捕幸成常陸國ニ於テ采地一萬石加給セラルル御書院番御花

一 同 永井信濃守尚政上總國ニ於テ食邑一萬石加賜ル  
 一 同 駒木根長次郎政次食禄七百石加賜セラルル  
 一 同 秋浦忠左衛門親俊ニ采地ヲ加賜セラルル旧領統テ五百石ヲ領ス天正十  
 一 同 板倉伊賀守勝重老衰ニ依テ其子  
ノリ  
御納戸  
勤

周防守重宗ヲ父勝重ニ相副エラレ京・  
師ノ所司代シ勤ム

一 是年植村帶刀恭勝大番頭トナル元和九年

公ノ余ニ依テ  
將軍家奉仕

一同 服部権大夫 台命シ奉テ今切ノ

一同 関所シ守テ在番ス

一同 村瀬左馬助重治始碓谷山三郎ト  
号後村瀬ニ改ム

公ノ、台命ニ依テ頼房ニ属ス其子小

三郎ニ父左馬介カ領地二千石ヲ賜リ

家光公ニ奉仕ス

一同 公ノ命ニ依テ鳥居土佐守成次忠

長主ニ属

一同 小野麻右衛門佐橋甚兵衛大御番

ノ組頭ト成ル

一同 深津孫七郎正貞御膳奉行トナル

一同 山口駿河守直之城州伏見奉行ト

十是ヨリ先門奈助左衛門宗勝山田  
清大夫重次ニ人此後大和守ト改ム 同 土屋辰之助殺直但馬守ト改ム 公

ノ釣命シ奉テ 家光公ニ奉仕ス

一 是年京都智恩院ヲ造営了リ宮城并彼

守豐盛是シ奉行ス翌年豐盛京都ニ於テ卒ス造管未十ヲ  
ス是ニ依テ其孫主膳豐嗣祖父豐盛ニ  
相續テ奉行シ勤ム川勝信濃守五味金  
右衛門是

一同 平野遠江守長泰卒ス七十才其子

權平長勝父長泰家督ヲ續ク

一同 渡邊孫三郎勝上使トシテ肥後

國ニ赴ク其年九月肥後

東武實錄卷之七上

元和六年庚申年自正月至閏十二月

正月

一 朔日 御家門之面々在府之諸大名幕

一 下之諸士 城ニ登テ新正ヲ祝ス

一 五日 年始ノ賀儀トシテ 禁裏工御

一 太刀馬代白銀百枚蠟燭千挺ヲ献セラ

為年始ノ儀 御家門之面々在府之諸大名幕  
浪子百枚 蠟燭千挺 御家門之面々在府之諸大名幕

如く漢之

正隆

廣格友

三條友

一 是日 家光公正三位 叙シ給フ

一 同 佐々木庄五郎 公ニ奉仕ス

一 十一日 家光公権大納言ニ任シ給フ

諸士 城ニ登テ是シ賀ス

一 同 松平掃部忠隆從五位下ニ叙シ兵

庫頭ニ任ス 忠隆ハ主殿外家忠一元和元

年 撰州大坂ノ役ニ戦死ス 彼レカ先祖

忠死ス 公ニ是シ憐ニ給テ 嗣子ノ為ニ問

テ弟忠隆シ召シ 夜ノ忠勤急ル 嗣子トシテ依

御側ニ奉仕シ 晝夜ノ忠勤急ル 嗣子トシテ依

正隆ハ是年人也 西尾丹後守忠永 隱岐守吉次

一 十四日 西尾丹後守忠永 養子 實酒井

一 廿六日 織田常真先年拜領ノ黄鷹捉

ル所ノ鷹一羽シ献ス 是ニ依テ御内書

シ賜ル

一 廿八日 日向傳右衛門政次 羊兵衛始

政次 羊兵衛始

テ 公ニ謁ス

二月

一七日 本多縫殿外康俊卒

一廿二日 女院ノ御所御腫物氣ニ依テ

御内書ヲ西傳奏工遣ハサル

女院御所御腫物氣ニ依テ

松子良為ニ賜ル

二月廿二日 津澤

廣橋良

三條良

一廿六日 松平阿波守至鎮卒 三十五才

一晦日 松平宮内少輔忠雄石壁御普請

一ノ為角石平石栗石等目錄ヲ以テ献上

一 是依テ奉書シ忠雄ニ賜ル

一 是日京師燒亡西尾丹後守カ遺領常州

一 土浦ノ城采地二万石其子右京亮忠照

一 後丹後守ニ賜ル

三月

一四日 洛陽燒亡

一五日 去月廿六日松平阿波守至鎮卒

依テ 公御哀傷ノ御書ヲ父蓬庵ニ賜  
リ香奠トシテ白銀五百枚ヲ下サレ  
此後トテ急ニ法台修之等ノ事  
奉之ハ後方古奠銀子五百枚トテ述  
口トシ

二月六日  
遊庵

- 一 十二日 渡邊半兵衛真綱卒ス八十七
- 一 十五日 駿州久野山 東照大権現ノ
- 社ニ神領ヲ寄附セラル

東照大権現 駿河国 社所ニ奉祀名ニ子名

内多神法科 正百名社法科子八百名科  
此以之古件ノ左ノ事ナ固有法科ノ事

十六日村 月原 奉在壽進ノ 永代令

爲止檢討使也 從祀久ノ事ナ 志保系大内

照久令ノ科細科ノ社法科ノ勅法科ノ件

元和六年二月十日

一 是日東叡山無量壽寺喜多院ニ寺領ノ

御朱印ヲ賜ル

武藏守東叡山無量壽寺喜多院入



東郡仙波御音石、奉て上へ金兼納再。  
寺中、河原屋敷、松田山林、竹木、金、火、海  
より、水、代、兵、推、以、使、不、入、比、若、於、之  
刻、法、掌、上、中、を、香、引、く、者、予、以、旨、辨、法  
身、後、石、を、之、名、傍、に、於、て、件

天保六年二月十日

市橋下総守長勝卒ス六十四才其子長  
政越後國三條ノ城ヲ改メ江州河州ニ  
於テ采地二万石ヲ賜ル  
攝州大坂ノ城修築成ルニ依テ其功ヲ

褒セラレ各奉書ヲ賜ル参議ノ輩侍從  
以下ノ面々修築ノ速カナルト遲滯ア  
ルト奉書ノ文章ヲ三段ニ分テ賜ル  
参議輩賜ル奉書

今度大坂重修成入候、御早建候事、  
御儀免候事、若事、御儀、入、候、御  
下、御、儀、御、事、

侍從及諸大夫ノ面々修築速成ル輩ニ  
賜ル奉書

今度大坂重修成入候、御早建候事、  
御儀免候事、若事、御儀、入、候、御  
下、御、儀、御、事、

後復受<sub>レ</sub>命<sub>ニ</sub>奉<sub>レ</sub>書

修築其功遲ク成<sub>ル</sub>輩ニ賜<sub>ル</sub>ノ奉書

今<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>復<sub>レ</sub>命<sub>ニ</sub>奉<sub>レ</sub>書

受<sub>レ</sub>命<sub>ニ</sub>奉<sub>レ</sub>書

一十八日 今村傳四郎石丸六兵衛監使

ト云<sub>レ</sub>羽州最上ニ趣ク翌年四月江戸

ニ歸<sub>ル</sub>

一是日石川八太夫春吉始テ公ニ謁入

一是月本多下総守俊次力遺領江州膳所

ノ城食邑三万石賜<sub>ル</sub>

四月

一朔日藤堂和泉守高虎カ所勞快氣ニ依

テ弥以テ保養仕<sub>ル</sub>ヘキノ旨奉書ヲ賜

ル

一廿二日 仰出サ<sub>ル</sub>奥方土戸ノ掛札

一以土戸ノ内々奥方ノ者流口流口ノ不

流口人ノ不流口ノ用志一切不<sub>レ</sub>也

元禄六年四月廿二日

一廿四日 酒井讃岐守忠勝 公ノ命ヲ

奉<sub>テ</sub>大納言家ニ奉仕ス

一廿九日 高臺院 太閤秀吉 祿單物目錄。

一 シ以テ 献上ス 是ニ 依テ 御内書ヲ 賜ル

一 是月 松平忠英 本氏蜂須賀 父阿波守至

鎮カ 遺領阿波淡路二州 食邑二十五万

六千九百石 賜ル

一同 公ノ 台命ヲ 奉テ 水野備後守分長

頼房ニ 属ス 采地一万五千石ヲ 賜ル 其

子元綱 後備後守 父分長カ 本領三州新

城 食邑一万石ヲ 賜テ 麾下ニ 奉仕ス

五月

一 五日 公西之丸工 来臨 御茶湯アリ 御

鐔ノ 間ニ 出御有テ 御薄茶 召上ケラ

ル、時ヲ 雲御臺子ノ 茶道ヲ 勤ム 公

是シ 褒シ 給ヒテ 御草物 御帷子 黄金ヲ

了 雲ニ 賜ル

一 八日 公ノ 姫君 女御 入内トシテ 江戸

御首途 酒井雅樂頭 忠世 土井大炊頭 利

勝 供奉ス 時ニ 公ヨリ 黄金五十枚ヲ

以 忠世 利勝ニ 賜ル 板倉周防守 重宗 是

ニ 副フ 外科伯安 阿部 攝津守 信盛 御歩 行頭

其餘供奉ノ輩多シ阿茶ノ局後一及ヒ侍女數多是ニ從フ

此日大納言家ヨリ御使トシテ土井左

兵衛正次神奈川ノ御旅館到ル姫君ノ

御方ヨリ暑衣ヲ正次ニ賜ル

一是月遠山刑部少輔秀友父久兵衛友政

カ遺領濃州苗木采地一万五百石余ヲ

賜ル

六月

一五日戸田七内光定卒八十四才

一十五日高木喜左衛門政信卒ス二十

八歳

一十八日公ノ姫君女御入内酒井忠世

土井利勝禁裏へ献物ヲ捧ク傳奏廣

橋大納言兼勝三條大納言実條ヲ

勅使トシテ忠世利勝ニ御太刀ヲ賜ル

又賜モノアリ

七月

一六日松平伊与守忠昌生見靈ノ嘉儀

トシテ黄金拾両ヲ献スルニ依テ御内

書ヲ賜ル

一七日 加藤式部少捕明友素麵十曲物  
ヲ献ス是ニ依テ奉書ヲ明友ニ賜ル

八月

一朔日 松平伊豆守信吉卒嫡子山城守  
忠國家督ヲ継ク

一六日 浅野但馬守長晟居城藝州廣嶋  
ノ城去ル五月ノ洪水ニ櫓石垣崩レ外  
郭ノ屏悉ク破レ損スルニ依テ右ノ趣  
注進ス以前ノ如ク修復スヘキノ由仰

出サレ

八月 洪水ニ居城元角櫓石垣崩  
ニシテ凡惣搦ノ城破損多ク中板倉  
伊賀守方道トト城ニ在 其國ノ事  
前ノ事トナシト台 上ノ事トナシト台

八月

長對  
土大  
土上  
沼井

浅野但馬守

一九日 佐々木中務大捕高定 左京大夫  
美賢男  
卒七十四才

一廿一日 頼房左近衛権中將ニ任シ同日参議任ス中將旧ノ如ク正四位下ニ叙ス

一廿二日 忠長主公ノ御從三位ニ叙シ

同日参議ニ任ス元無  
官

一廿八日 蜂須賀蓬庵松平千松 後阿波  
守ニ任  
ス連札ノ奉書ヲ賜リ漸ク寒天ニ向其上千松久々ニテ飯国タルノ間領国ニ

於テ越年仕来年ニ至テ参勤ノ節シ窺

ヒ参府スヘキノ由シ仰出サレ

一是月立花左近將監宗茂 後飛  
彈守奥州南郷

采地二万五千石ヲ改メ筑後国柳川ノ

城食邑十万千六百石余ヲ賜ル

一公ノ姫君御入内ニ依テ一万石以上ノ

諸大名樽肴ヲ献ス領地ノ多クニ依テ

差アリ

一是月幾内西國洪水

九月

一四日 松前志摩守公廣大一シ献

スルニ依テ奉書シ賜ル  
一十五日 宮原左京亮義和

一十九日 對馬侍從義成宗對馬守緑組ノ儀

仰出サレ、御礼トメ小袖五虎皮二枚

一シ献ス

一廿日 水野日向守勝成疊ノ表五百疊

シ献スルニ依テ奉書シ賜ル

一是日 秋田侍從義隆佐竹修大夫一シ

献ス

一是月 京極修理亮高冬丹後国田邊ノ城

食邑三万五千石賜ル

一十月

一六日 水野監物忠元卒

一十日 岩城但馬守貞隆卒三十八才

左京大夫常隆養子実ハ貞隆嗣子十キ

佐竹修理大夫義重ニ男ハ依テ家督シ繼

シム宣隆ハ佐竹修理

太夫義重四男

一十二日 浅野但馬守長晟三原酒三樽  
ヲ献ス。

十一月

一二日 増上寺住持普光親智國師源 上人

寂ス行年七十五才 在位三十七年

一十二日 加藤肥後守忠廣菖蒲酒二壺

ヲ献ス是ニ依テ奉書ヲ忠廣ニ賜ル

一廿二日 小嶋忠兵衛賢廣始テ公ニ

謁ス

一廿七日 花房五郎左衛門利卒ス四

十一歳

一是日 大久保五郎八郎元政卒三十一才

十二月

一五日 仙臺宰相正宗松平 領国ノ 斬

并雉生鱶ヲ献スルニ依テ御内書ヲ賜

ル

一八日 水野日向守勝成力居城備後国

福山ノ城修築成ル是ハ公役ヲ以テ築

カシメ給フ是ニ依テ御礼トシテ自銀

百枚呉服十使者ヲ以テ是ヲ献スルニ



依テ奉書シ賜ル

一十二日 渡邊孫左衛門久勝卒 四十八

一十四日 松平大隅守重勝駿府ニ於テ

卒ス七十二才其子丹後守重忠父重勝

カ家督シ継ク

一廿六日 内藤仁左衛門政次 仁兵衛忠政四男

始テ公ニ謁ス

一廿八日 西郷孫六郎正真 西郷彈正左衛門家真三

男家真嫡子孫九郎忠真早世トノ間

トモ康真又卒スルノ故クニ從五位下若

三男孫六郎其家督シツクニ從五位下若

一 狹守ニ叙任ス

一 是年房州長狹郡ニ於テ食禄シ加賜セ

ラル

一 是日高臺院ノ御方歳暮ノ賀儀トシテ

吳服三重ヲ献上ニ依テ御内書シ賜ル

一 閏十二月

一 八日 松平忠直 左馬亮忠 從五位下叙

シ淡路守ニ任ス

一 是月 公東国ノ地所々ニ御放鷹アル

丁例年ノコトシ

一 是年松平知兼 和泉守家 從五位下叙内。

匠頭任不

一 同本多重世 豐後守康 從五位下叙之丹

後守任ス

一 同松平隱岐守定勝勢州長嶋ノ城采地

七千石加増了ラル素名ノ外

一 同有馬玄蕃頭豐氏丹波国福智山人城

采地八万石 内二万石ハ 轉シテ筑後久

苗米ノ城食邑二十一万石賜ル

一 同稻葉平右衛門重綱 後攝津守 越後国

三條ノ城三千石加賜セラル旧領統テ

二万三千石ヲ領ス

一 同分部左京亮光信江州高嶋郡大溝ニ

シイテ食邑二万石餘賜ル

一 同三宅越後守康信勢州龜山人城采地

一万二千石ヲ賜ル 加増

一 同松平出雲守勝隆ニ采地三千石加賜

セラル

一 同松前志摩守公廣ニ松前ノ地金山ヲ

賜ル土井大炊頭利勝 鈞命ヲ傳ル

一本多備後守糺定重豊後守康大御番頭ト

十ル

一同細井金兵衛勝久御鉄炮足輕頭卒ス七十七

其子勝吉後金兵衛父勝久力跡役勤ム

一同江戸ノ城大手ノ御門石垣十三町余

及舛形一ヶ所松平陸奥守正宗是ヲ築

ク時ニ正宗在国ス其子美作守忠宗父

正宗ニ代テ是ヲ勤ムル事急ラサル由

上聞ニ達シ其芳ヲ褒セラル召シテ

忠宗登營ス御腰物大羅慶光利如シ賜ル

一 是年江戸ノ城三ノ丸ノ虎口石壁ヲ築

ク安倍四郎五郎正之是ヲ奉行ス今年

来年ニ至テ伊豆相模駿河三ヶ国ニ人

夫ヲ遣ハシ石ヲ江戸ニ運フ

一同江戸北ノ丸造作了リ松平大膳太夫

忠重是ヲ奉行ス

一同大坂ノ城石壁諸大名ニ命シテ是ヲ

築カシム

一同小出與平次有宗後大隅始テ西君

ニ謁ス

一同參議賴房常州水戸ニ於テ痲疾シ患  
ル片山宗哲 公ノ命ニ依テ水戸ニ趣  
キ藥ヲ用ヒ大驗ニシテ快氣アリ是ニ  
依テ宗哲不日ニ江戸ニ歸ル 公其醫  
術シ美賞セラル

一 是年石野六左衛門廣吉武州忍ヨリ江  
戸ニ來テ 公ニ奉仕 廣吉少ノ時神  
ニ在リ其後菅沼小大膳ニ屬ス慶長六  
年大ノ城番 召出テ此幕下屬ス武州  
忍ノトム 志六守廣高男始テ 公ニ

一 同小濱民部光隆攝州大坂船手ノ役ト  
十ルトキニ加賜二千石旧領并ニ五千

一 石ヲ領ス

一 同堀田三四郎正盛 後出羽守又加賀守  
男始テ大納言家ニ謁ス 勘左衛門正利

一 同小出尹貞 後備中守大隅 始テ 兩君  
ニ謁ス 寬永二年脚小寛永八年勤番ニ  
奉仕 賜ル 地五 俵賜リ 寛永八年脚近習ニ

一 同井戸三十郎覺弘始テ 公ニ謁ス 寛  
百石賜ル

東武實錄卷之七之下

元和七年辛酉年

自正月至二月

一十一日 奧平大膳大夫家昌力嫡子時

十四 公ノ御前ニ於テ元服ス御諱字

ヲ賜忠昌ト号從五位下叙美作守ニ任

ス時ニ御腰物左文忠昌ニ賜ル

一 是日松平攝津守忠政力男時ニ公

ノ御前ニ於テ元服ス御諱字ヲ賜テ忠

隆ト号從五位下叙飛騨守ニ任時ニ御

腰物左文忠隆ニ賜ル



元禄七年二月日

一十七日 官崎太郎左衛門安重卒 六十

三才

一廿六日 松平山城守忠国丹波国福智

山ニ城番シ勤去年有馬豊氏筑後国久

ノ城ヨリ是ニ移ル今

三月

一福嶋左衛門太夫正則カ屋地及造作料

下シテ白銀千枚松平宮内太浦忠雄

賜ル

一是春松平陸奥守正宗其子美作守忠宗

カ家類火ニ焼失是ニ依テ白銀一万千

六百枚其子忠宗ニ白銀四千六百五十

枚賜ル

四月

一三日 佐久間久七郎頼直始テ公ニ

謁ス寛永二年ヨリ御小性組

五月

一二日 佐野彦太夫正吉卒 九十三才

一三日 細川内記忠利後越中守休暇シ賜リ

領国ニ下着ニ依テ御礼トシテ使者ヲ  
以賙服五ツヲ献ス是ニ依テ奉書シ忠  
利ニ玉ハル

一四日 小笠原右近太夫忠政蚊屋二鈞  
ヲ献スルニ依テ奉書シ玉ハル

一五日 太田原政次後出雲守出雲  
公ニ謁ス

一是日 川口久助宗次孫作宗公ニ奉仕

一十五日 坂津珍法印卒 三十九才

六月

一五日 生駒左近太夫正俊卒 三十九才

一十二日 松平上総介忠輝母儀逝朝覺

院上号ス墳墓ヲ傳通院ニ建ツ又武陵

吉水ニ宗慶寺シ立ル

一廿日 栗原忠兵衛清次大坂ニ於テ卒

ス三十二才

一廿五日 美作侍従忠廣美作守領国下着

ニ付テ使者ヲ以テ曝布二百端千艱シ

献ス是ニ依テ書シ忠廣ニ玉ハル



一 是日松平宮内少捕忠雄帰国ニ依テ使  
者ヲ以テ賄服五ツ献ス奉書ヲ忠雄ニ  
玉ル

一 廿七日 有馬玄蕃頭豊氏縹珠十卷杉  
原紙十束ヲ献スルニ依テ奉書ヲ豊氏  
ニ玉ハル

一 廿九日 安藤對馬守重信卒ス六十五  
才其子右京亮重長重信ノ外孫是ヲ養  
テ子トス実本多藤  
男四郎父重信カ家督ヲ繼テ上州高崎城  
采地五万三千石ヲ玉ハル

一 是月内藤信照紀伊守從五位下叙豊前  
守ニ任ス

二 廿七月 蘇我山

一 二日 松平長門守秀乾休暇ヲ賜リ帰  
国ス御礼トシテ使者ヲ差上テ縹珠世  
卷ヲ献ス是ニ依テ奉書ヲ秀乾ニ玉ハ  
ル

一 四日 松平千松縹珠三十卷麩斗一桶  
ヲ献ス

一 六日 松平伊与守忠昌七ツノ賀儀ト

一 シテ黄金十両柳樽三荷躰百刺ヲ献ス  
ルニ依テ奉書シ忠昌ニ玉フ

一 十九日 南部信濃守利直景鷹ニ  
献ス

一 當月生駒小法師高俊 後壹岐守任ス 父正俊遺  
領讚岐国十七万三千石ヲ玉ハル

一 同松平左近将監成重三州西尾城食邑  
二万石ヲ轉シテ丹波国龜山城食邑二

万二千二百石賜ル  
一 同本多下總守俊次江州膳所ノ城采地

三万石ヲ轉シテ三州西尾城ヲ賜ル 領地

ノ負救元堀三左衛門徳山五兵衛引渡  
ノ檢使ニメ西尾ニ趣ク時ニ 仰出サ

ル、趣

光

一 今度四國廻リ元百石身を起し人少

一 日以テお返し年々公人改五返と十  
國廻リ有と云はれ人少は

久人少中お返し

一 年貢米と云ふは

下加清代事

一 東進言元法心去主事法全の男女  
久々事よれい子事よれ七歳迄  
父母よれ海よれ  
一 東進言元法心去主事法全の男女  
男女よれ事よれ海よれ  
海事

一 去年東進事正月より四月まで北に

一 去年七月廿八日大

一 同 八月 沼 雅

一 三日 東国大風吹テ増上寺山門破

一 六日 石野新藏廣次武及忍ノ城ニ於

テ卒ス三十四歳新左衛門廣光男廣光  
役菅沼小大膳唐助三属三州長篠ノ  
是依テ始テ麾下ニ属シテ戰功アヘリ  
属シ康助卒テ後彼ヲレカ從侍等依テ廣  
故アシ康助卒テ後彼ヲレカ從侍等依テ廣  
光其隊長ト成テ忍ノ城ヲ守ルニ諸士ヲ  
指揮ス慶長十九年四月十三日廣光卒

六  
三  
十

一七日 田中筑後守忠政卒嗣子十キニ

依テ筑後守カ領地ノ内僅二万石ヲ以

テ弟久兵衛吉貞ニ玉ハル

一是月岡部内膳正長盛丹波国亀山城采

地三万四千石ヲ轉シテ同州福智山ノ

城食邑五万石玉ハル松平山城守忠国

此城ヲ長盛ニ渡ス今春ヨリ忠国福智  
山ノ城番シ勤ム

一同暹羅人來朝

九月

一十三日 市橋三四郎長吉始テ西君

ニ謁ス酒井雅樂頭酒井讚岐守忠勝是

ヲ披露ス市橋下総守長勝多年長吉ヲ

み抱シ兼テ麾下ニ属セシテ請フ長

勝ハ去年卒スルト云ヘ氏年来ノ願々

ル人間今日召シテ謁スル者ナリ長

勝カ生中ノ願ヒニ依テ彼レカ領地江

州二万石ノ内二千石ヲ以テ長吉ニ分

玉ハル三十四郎長吉ハ武藤金左衛重成  
ト市橋ス

十月

一十五日。雨宮權左衛門政次權左衛門

始テ大納言家ニ謁ス

十一月

一廿九日。西尾左京忠照丹後守從五位

下叙丹後守ニ任ス

一是月。公東金ニ御放鷹アリ。大納言

家ヨリ御使トシテ土井左兵衛正次東

金ニ趣ク

一是月堀甚五兵衛秀高因幡守始テ西公

ニ謁ス

一同山角清三郎定勝始テ大納言家ニ

謁ス同九年脚小性

一是月稻葉宇右衛門政勝後丹後守上総

国ニ於テ采地千五百石加賜ル

十二月

一十一日。山岡四郎右衛門景廣主斗頭

男始テ公ニ謁ス

一十三日。織田有樂俗源五郎長卒ス

七十五日

一廿八日 岡部直賢 内膳正長 從五位下  
叙丹後守任

一廿九日 土方彦三郎雄次 從五位下 叙  
河内守任

一 是月千本清兵衛長勝 帶刀賢 始テ 公

二 謁ス

一同坂淨元 淨玠法子 始テ 兩君ニ謁ス命

三 依テ法眼ニ任ス時ニ十一才

一 是年朽木植綱 後民部 勤仕人勞シ褒美

セラル 大納言家御腰物ヲ植綱ニ玉

ハル

一同 大納言家御放鷹トシテ河越ニ

渡御了リ

一同北條氏信 美濃守氏 從五位下 叙美濃

守任ス

一同菅沼織部正定 芳勢州長嶋城食邑三

万石ヲ轉シテ江州膳所ノ城采地三万

石ヲ賜ル

一同松平丹後守重忠 遠州横須賀ノ城采

地二万六千石ヲ轉シテ羽州上城食邑

四万石賜ル

一同松平内匠頭知乘三州ニ於テ食邑千石賜ル

一同五畿内惣代官ノ勤メ善惡ヲ改メラ

ル、処ニ喜多見五郎左衛門勝重後若狭守任其勤役善行ナルヲ以テ美賞セラレ

河内国東野村向野村武藏国駒井村ニ於テ采地千石加賜セラレ

一是年松平半四郎重則後内膳正亦大隅守改大御番頭トナル元御步行頭

一稻葉宇右衛門正勝後丹守御書院番ノ番頭トナル是日ヨリ先御

一同細井金兵衛勝吉駿州清水御舟手頭トナリ水主五十人ヲ預ケラル元御鉄炮足輕

一同松平定房定勝五男従五位下叙美作守ニ任ス

一同土屋平八郎利直民部少輔忠直男従五位下

叙民部少輔任

一同松平定政後能登守始テ西君ニ謁

ス

一同富永孫六郎重師主膳正新燒火ノ間

ノ御番ヲ勤ム

一同竹中推之助重則始テ公ニ謁ス

一同都筑又右衛門政武御扶持方ノ役及

ヒ御賂方ヲ兼役ス

一同朝倉筑後守宣正采地四千石加賜領旧

統一石一忠長主ニ附属セラル

東武實録卷八

元和八年壬戌年自正月至十二月

正月

一朔日江戸ノ城歳旦ノ賀儀例ノ如シ

一是月大納言家ノ命ニ依テ土井左兵衛

正次御小性組与頭トナル

二月

一十日近藤縫殿介用可卒上使トシテ越前國ニ趣テ

キ馬路ノ時相州藤澤ニ於テ

一是日被仰出御制法





一 清治馬路... 中...  
一 秋... 多...  
一 春... 物... 多...  
一 春... 物... 多...  
一 春... 物... 多...

元和八年戊二月

定

一 大... 一 已... 一 如... 一 出...  
一 動... 一 一...  
一 右... 一 中... 一 左... 一 右... 一 左...

一 清... 一 所... 一 年...  
一 小... 一 一... 一 又... 一 一...  
一 介... 一 子... 一 一... 一 一...  
一 一... 一 一... 一 一... 一 一...  
一 一... 一 一... 一 一... 一 一...

元和八年二月

三月

一 京極丹後守高知丹後國... 於... 病... 危...  
急ノ告ア... 依... 其子高廣... 後... 丹... 御... 暇...

ヲ賜丹州ニ赴ク時ニ御腰物来国御馬

一正高廣ニ賜ル

四月

一廿八日 青木次郎右衛門可直卒六十

一一日 寺澤式部少捕忠勝志广寺廣卒

一七七日 仙石兵部少捕忠政卒五十一

一大神君七回忌ニ依テ 公日光御登山

有ルハキ故被 仰出越條々

一今夜の侍々付不七服迄年柱何身良々漆

丸右を漆々付々美遠宵々疎如々也

科々々娘子一様々々

一噓花々場大車々々々々々々々々

い々々々々々々々々々々々々々々々

車々々々々々々々々々々々々々々々

かか々々々々々々

一此頃中の是々々々々々々々々々

坊々々々々々々々々々々々々々々々

道具をて通美遠宵々疎如々々

娘子を授々々々

一 今度の律中入選は、如き等の早自然  
 如き。 還清以後の如き律中  
 一 律中入選の如き者、如き等の早自然  
 相有りの如き。 律中入選の如き者、  
 一 律中入選の如き者、如き等の早自然  
 如き等の早自然。 律中入選の如き者、  
 一 律中入選の如き者、如き等の早自然  
 律中入選の如き者、如き等の早自然。

とて古列車

一 律中入選の如き者、如き等の早自然  
 律中入選の如き者、如き等の早自然。

附馬と云ふも、

馬の口波の... 馬の子を殺す方と科事

一 法道具入り... 自然得る事

一 小石の... 山の方と... 小石の

一 不押買根籍美遠有... 可為曲事

一 此を... 場... 科事

一 根石七重採竹木... 科事

一 一... 科事

去る科根を殺す事

一 一... 科事

一 一... 科事

一 一... 科事

但月... 新... 文... 又...  
 一月廿... 昔... 法... 科... 十... 見...  
 の... 歩... の... 用... 換... 根... 子... 部... 根... 右... 面...  
 古... 右... 右... 右...

元和八年戊辰月日

傳

一 若... 出... 十... 科... 根... 子... 根...  
 根... 子... 部... 根... 右... 面...

一 地... 若... 札... 判... 子... 部... 根... 子... 根...

一 夫... 氣... 能... 判... 而... 為... 海... 馬... 中... 右... 部... 根... 子... 根...

附... 之... 右... 部... 根... 子... 根...

右... 部... 根... 子... 根...

元和八年戊辰月日

一十三日 公日光御登山トシテ江戸ヲ

出御

一十四日、林藤四郎忠政卒 五十九

公日光山ヨリ御還洛ノ節御臺所ノ御  
方違例ノ由告ケ来ルニ依テ宇都宮ヨ  
リ昼夜ニ限ラヌ 台駕ヲ急カル夜ニ  
入江戸ニ還御 本多上野々正純ニ 公  
還御已後 大納言家日光山御参詣ト  
シテ江戸ノ城御首途

五月

一廿三日 千本又七郎義右始テ 両君

一三謁ス

一是月青木次郎右衛門可直遺領濃州撰  
州ノ内五千石其子直澄ニ賜ル

一是月ヨリ江戸御本城経営御表方奉  
行土井大炊頭利勝大工棟梁中井大和  
奥方ハ酒井雅樂頭忠世是ヲ奉行ス大  
工棟梁鈴木近江御作事ノ中 公西丸  
ニ移リ賜フ 大納言家本多美濃守忠  
政カ家ニ渡御アリ御造作畢ラサル  
間ハ此宅ニ御滞座アリ

六月

一廿日 台命ニ依テ榊原内記照久從二位ニ叙ス照久カ高位憚リアルニ依テ先伊勢ノ祭主ヲシテ從二位ニ叙セシメ給フ照久カ昇進ノタメ也

七月

一三日 公ノ御娘小松中納言利常室逝ス廿三才

天德<sup>院</sup>卜号

一五日 國々所替ニ依テ仰出サレ、趣

傳

一 武具流遠具習地ノ事ハ<sup>天德</sup>代事

一 竹木一切<sup>天德</sup>代事

一 家傳ノ事<sup>天德</sup>代事

一 去<sup>天德</sup>代ノ事

一 事<sup>天德</sup>代ノ事

一 事<sup>天德</sup>代ノ事

漢代事

一 明事<sup>天德</sup>代ノ事  
一 皇男女ノ事<sup>天德</sup>代ノ事



一 奉進方、右江右國、返、もま、子、順、人、  
の、来、あ、く、し、れ、あ、七、七、延、中、二、時、父、母、事、  
右、皇、と、お、も、は、ら、ち、也、

文和八年八月廿日

一 今、度、就、國、皆、百、石、奉、入、一、延、あ、く、二、日、以、七、  
お、送、奉、

一 種、得、く、く、後、新、出、く、信、一、身、と、改、於、難、と、也、

一 其、年、事、と、く、改、二、力、并、指、奉、

文和八年八月廿日

文和八年八月廿日

一 十二日、榊原内記照久、参入内昇殿、又

一 是日、京極丹後守高知卒、五十一才

一 同大嶋武兵衛光政卒、六十才

一 廿五日、伴五兵衛重盛卒、五十四才

一 是月、畠山民部政信、左、行、門、佐、始、大納

言家、二、謁、入、是、謁、ヨリ、廿、政、信、寛、永、元、年、ヨ、

一 同、参、勤、ス、大納言家武州川越、二、御、放、鷹、ア、リ、

土井左兵衛正次御使トシテ江戸ニ至  
リ公ノ御機嫌ヲ窺フ此時大納言  
家ノ命ニ依テ宮木甚右衛門和南本性  
後越前守任ス御目付トナル還御ノ時采地  
六百石和南ニ加賜セラル  
一此秋最上源五郎義俊駿河守領地ヲ没  
收セララル父家親元和三年卒シテ義俊  
其家督シツク処ニ先年父家親領ニ  
卒スルノ逆臣有ツテ毒害スルノ由義  
俊カ臣松根備前守江戸ニ来テ執事奉

行人等ニ訴ル是ニ依テ義俊臣甲方本  
城豊前守石四万五千山辺右衛門最上斐  
領石大山内膳最上楯岡甲斐  
最上石義光男一東根源左衛門一万三小  
万六千石領石鞋延越前石大山筑  
前乙方松根備前守二万甲乙両方ヲ  
酒井雅樂頭忠世カ宅ニ招テ老臣奉行  
人等連會シテ其訴シキク甲乙相分レ  
テ淨論スルノ數回乙方松根備前カ曰  
出羽守義光卒シテ後其子駿河守家親

家督シツクト言へ凡家親未々年若シ  
テ国政ヲシラス是ニ依テ家臣等家親  
シ退テ出羽守美光カ子山辺右衛門シ  
家督ニ立ンテ謀ル松根備前守獨家  
親嫡流タルヲ以家親シ立ント是シ衆  
ト争フ心アリ然ル処ニ家親頓ニ死ス  
松根備前守是ヲ聞テ怪ミ即日家親カ  
居城ニ馳行キ其死骸ヲ見ント欲スレ  
凡早ク死骸シ火葬ニシテ是ヲ見ル  
シ得ス松根弥疑ヒ思テ家親カ側ノ侍

女ヲ招テ竊ニ是ヲ聞クニ其死骸暫時  
ニ色変シロヨリ血流レ出ルテ夥シク  
臭氣又甚ク其由ヲ告ル兼テ逆臣等カ  
惡意ヲ思ヒ今是ヲ聞テ察スルニ毒害  
ニ疑ナキノ旨ヲ言フ時ニ老臣奉行人  
ホ忠世カ宅彼侍女ヲ招テ是ヲ詰問ス  
ルニ松根カ言フ所変定ナラス故ニ松  
根カ訴ニ證據ナシ是ニ依テ利ナラス  
此旨ヲ台聽ニ達ス命有テ曰ク美俊  
若シテ家中指揮宣シカラスト言へ凡

祖父出羽守美光忠勤アルニ依テ領地  
シ召上ラルニ及ハサルノ間家臣  
等私ナク国政ヲ沙汰シ美俊ヲ守リ夕  
ツヘキノ御旨ナリ嶋田次兵衛正利後  
正少彌 米津勘兵衛田盛兩使トシテ是  
シ傳ル山辺右衛門麩延越前言上シテ  
曰ク 台命背キ難シトイヘ氏松根如  
キノ惡意ノ臣重ヲモ是アル時美俊若  
年ニシテ国政ヲ乱ルヘキノ間 鈞命  
ニ從ヒ難キノ旨達テ言上スルニ依テ

遂ニ美俊カ領地ヲ没収セラレ近江三  
河二州ニ於テ僅ニ采地一万余石ヲ賜リ  
此度淨論ノ輩著甲乙共ニ所々ニ預ケ  
ラル本城豊前守大山筑前守二人ハ酒  
井雅樂頭忠世ニ松根備前守ハ立花左  
近將監宗茂ニ上山兵部ハ黒田筑前守  
長政ニ備岡甲斐守ハ細川越中守忠利  
ニ麩延越前守ハ土井大炊頭利勝栗根  
源左衛門ハ松平千松後阿波小国日向  
ハ鍋嶋信濃守勝茂山辺右衛門ハ松平

宮内少捕忠雄ニ預ケラルル山辺後ニ  
納言頼房 寂上源五郎義俊カ変ニ依テ中  
松平陸奥守正宗 台命ヲ奉テ人数シ  
寂上ニ遣ヌト言ヘ氏家親カ家人等異  
心十キニ依テ正宗カ兵士等寂上ヨリ  
帰ル

九月

一廿七日 山口惠綸俗名駿河直友卒七十七

一大田原出雲守増清大関土佐守高増寂

上ノ城番シ勤ム九月ヨリ十月ヨリ

一去月十二日京極高知丹後国ニ於テ卒

又是三依テ内藤外記正重ニ上使トシ

テ白銀五千兩香奠ニ賜ル

十月

一十四日 松平石見守康安大御番頭命シ

奉テ駿府ノ常番トナル其隊士シ卒シ

一 十 日 同部平六郎卒

一 是 日 増上寺ノ山門御再興成テ供養執

行了リ去ル元和六年八月十三日ノ大風ニ依テ破壊スル故ナリ

一 是月松平大膳大夫忠重武州深谷采地  
八千石ヲ轉シテ上総国佐貫城食邑一  
万五千石玉ハル  
一 最上源五郎義俊 領地ヲ没収セラ  
ル、其妻ヲ沙汰セシカ為ニ 命ヲ奉  
テ本多上野介正純最上ニ趣ク伊丹喜  
之助康勝後播磨守高木九兵衛家政後筑後守  
上使トシテ最上ニ到テ 台命ノ趣正  
純ニ罪ヲ告テ正純カ領地宇都宮采地  
十五万石ヲ没収セラレ羽州由利ニ配

流セラレ由利ニ於テ食邑五万五千石  
シ賜テ正純是ヲ辞シテ僅ニ千石ヲ賜  
ル寛永十四年三月十日配其子出羽守  
勝政同配セラレ寛永七年五月十日配  
又永井右近太夫直勝 上使トシテ最  
上ニ趣キ此所ノ事ヲ沙汰ス鳥居左京  
亮忠政奥州岩城采地十萬石ヲ轉シテ  
最上山形ノ城食邑二十萬石ヲ賜ル内  
万石後加是ニ依テ永井直勝山形ノ城  
ヲ鳥居忠政ニ渡シテ江戸ニ歸ル内藤

左馬介政長上総国佐貫八城食邑五万

石ヲ改奥州岩城七万石賜ル

一廿八日 土方掃部頭雄長河内守岩城

二於テ采地五千石ヲ加賜ル

一内藤帶刀忠與食邑一万石賜ル

一是日傳通院住僧正譽廓山上人増上寺

ノ住持トシテ入院去ル元和六年普光

増上寺無住後今年至テ

一五日 夜ニ入中根外記九郎三浦養子

衛門正重男土井大蜂屋六兵衛七兵衛

收野源助等鬪諍ス其故ハ中根力宅ニ

蜂屋收野ヲ招テ酒ヲ勸メテ乱醉シ口

論ニ及ヒ中根ト收野心ヲ辨セテ蜂屋

ヲ切ル中根收野カ従者數十人馳集リ

蜂屋ヲ圍テ頻リニ責撃ツ蜂屋是ト奮

ヒ戦フ中根收野カ家人死スル者ノ二

人疵ヲ被ル者十餘人蜂屋其疵ヲ被ル

ヲ十七ヶ所ニシテ遂ニ倒レ死ス爰ニ

於テ中根收野妻子ヲ携ヘ屋地ヲ退キ

去ル夜更テ後蜂屋活テ家内ヲ見ルニ  
人獨モヤシ門ニ出テ守ル下人ニ是シ  
問フニ家内ノ男女残ラヌ宵ノ程ニ出  
奔ス其行方ヲシラサルノ由ヲ答ル蜂  
屋セニカ父ナク中根カ宅ヲ出テ我カ  
家ニハ帰ラヌ交好ノ友ナルヲ以テ太  
田善太夫カ家ニ行ク暫シ休息シソレ  
ヨリ親族ノ方ニ恐テカクレ侍ル翌日  
此事ヲ台聽ニ達ス其命有テ曰ク乱醉  
ニ依テ當坐ノ口論ニ及ヒ鬪諍スルノ

上從者等ニ手負死人多ク有リト言ヘ  
氏主人ノ蜂屋中根牧野等ハ命ヲ殞サ  
ス逐電スルノ上ハ御僉儀ニ及ハサル  
ノ御旨ナリ是ニ依テ彼三人幕下ヲ退  
キ浪遊ノ身ト成テ後中根ハ松平右衛  
門佐忠之ニ属シ蜂屋ハ浅野但馬守長  
晟カ家人トナル  
一同十五日勤番ノ面々ニ被仰出趣

條

一 高書アリキニ改書スル事



一 昔以中一列以系於通出十二三年為以三三三  
とす

一 藤島と書子列以後出法一車之科根二枚

一 此書一法元海一と方お代同由一何是  
又同名一車

一 一勅別浪一と一車之科根一枚

一 一書一何一然一用一付一由一以一核一自一  
中一可一有一と一改一易一

一 飯場一車一之科根二枚

一 一法一法一法一有一何一不一法一と一と一之科根一枚

一 一書一車一と一曲一車一と一於一死一罪一が一入一

一 流一罪一不一志一れ一と一と一死一罪一と一易一書一之科  
根一枚

一 一石一法一車一相一有一法一法一及一と一車一之科根一枚

一 一書一之科根一枚

一 一法一法一法一及一と一車一之科根一枚

一 一書一之科根一枚

一 汲上原の田中より一斗半の石を給付  
二 石割上必舟月晦日汲上原石を給付  
三 石割

但し石割の石は年寄の石より  
古くは石割の石より  
元禄八年戊午十一月十日

如左  
石割の石  
水井の石  
石割の石

石割の石  
石割の石

一 十八日 与安法印宗哲卒又五十五  
一 廿日 坂部三十郎廣勝卒六十二  
一 是月本城造作成之 公是ニ移リ玉フ  
一 同土井左兵衛正次上総国於テ采地三  
百石賜ル

十二月

一 八日 新造ノ御殿御移徒ノ賀儀トシ  
一 一 勅使中院通村江戸下向

一十二日 都筑弥左衛門為政卒 六十八

一十五日 高原次郎右衛門直久始テ

兩君ニ謁ス

一十九日 大屋小右衛門吉正卒 六十四

一廿三日 内藤甚十郎忠重 後伊賀守足利領

ノ内羽田村武州ノ内鶴田村ノ内ニ於

テ采地十石加賜セラレ

一廿六日 鍋嶋信濃守勝重二男 公日

リ松平氏御諱字賜リ忠直ト号シ從五

位下叙シ肥前守任ス 勝重嫡子紀伊守房

ノ産ニニ男忠直母ハ同部内膳正長盛  
カ娘ニテ大神君ノ御養女トシテ長盛  
重ニ嫁セシメ玉フ是ニ依テ忠直

一 是日 大久保甚左衛門忠直 田中ノ常番駿州

一 田中ニ於テ卒ス七十二才

一 廿七日 立花左近將監宗茂嫡子千熊

一 丸 一時 元服ス 公ノ御諱字ヲ賜テ忠

茂ト号シ左近將監ニ任ス御腰物 左文

忠茂ニ賜ル時 台命シ奉テ父宗茂左

近將監ヲ改飛驒守

一 廿八日 同部因幡守長政 内膳正長從

五位下叙因幡守任ス

一 是月酒井雅樂頭忠世上州武州西國ノ

内食邑二万六千石加賜セラレ旧領統

テ十二万石餘シ領ス

一 同本多丹後守重世豊後守康三州ニ於

テ采地千石賜ル

一 是年公藤堂和泉守高虎力家ニ渡

御猿樂上覧賜物アリ

一 同奥平美作守忠昌下総国古河ノ城采

地十一万石ヲ轉シテ再ヒ下野国宇都

宮城賜ル

領地貞教元ノ如シ

一 是年永井右近太夫直勝常陸国笠間城

采地五万石改メ下総国古河城食邑七

万石賜ル

一 同浅野采女正長重常陸国笠間食邑五

万賜ル

一 同酒井宮内太捕忠勝信州河中嶋采地

十万石ヲ轉シ羽州庄内城食邑十三万

八千石賜ル

外二千石後加玉ハ心

一 同真田伊豆守信幸信州上田城ヲ轉シ

一 同國河中嶋ノ城采地十萬石賜ル  
 一 同仙石兵部少輔忠政信州小諸城采地  
 五萬石ヲ轉シ同州上田城食邑六萬石  
 賜ル  
 一 同參議忠長主ニ甲斐國ヲ賜ル甲州ノ  
 外信州小諸ノ城七萬石ヲ并テ領地其  
 數ニ足ルハ代越中守シテ小諸ノ城  
 シ守ラシム公ノ命ニ依テ芦田武及  
 人士忠長主ニ附属ス  
 一 是年丹羽五郎左門長重常陸國古渡

一 采地二萬石ヲ轉シテ奥州棚倉城茗代新城  
 食邑五萬石賜ル  
 一 同戸澤左京亮政盛常州多賀郡采地四  
 萬石ヲ轉シテ六萬石賜ル  
 一 去年井上主計頭正乾遠州横須賀城采  
 地五萬五千石玉ル  
 一 是年酒井護岐守忠勝武州深谷采地七  
 千石加賜ル  
 一 同秋田城分實季完戸ニ於テ采地五萬  
 石賜ル

一同堀市正利重脚勅氣ヲ赦免セラレ常

陸國土浦ニ於テ食邑一万石賜ル奥平

美作守忠昌若年父ル間後見スヘキノ

由 台命ヲ蒙リ利勝宇都宮ヘ至リ

始テ井伊掃部頭直孝カ跡役御書院

頭ヲツトメ采地八千石ヲ領ス大久保

相模守忠隣縁者父ルニ依テ蒙テ長十九

年忠隣カニ依テ脚勅氣ヲ蒙テ奥平

大膳亮ルハ依テ脚勅氣ヲ蒙テ奥平

預ケラルハ依テ脚勅氣ヲ蒙テ奥平

是年松平壹岐守正朝石見守大御番頭

トナリ采地千石加賜セラル元御書院

三浦山城守重次後對馬守改三浦監物

御小性組ノ頭トシテ養父重成實子出生ニ依

同松平隱岐守定勝病病ニ依テ彼病ヲ

問賜フヘキ為メ土井左兵衛正次上

使上シテ勢州素名ニ趣ク征養子實ハ浅野

同龍川与右衛門直政外祖父豐前守忠

同江戸ノ城天守改造リ加藤肥後守忠

廣浅野但馬守長晟天守臺ノ石垣ヲ築

ク安部四郎五郎正之是ヲ奉行ス

一同高木善四郎正弘主水正始テ兩君

二 謁ス

一同伊達遠江守季宗嫡子左近太夫宗実

二男左京亮宗時溝口伊豆守善勝嫡子

一金十郎政勝溝口伯耆守宣勝二男又十

郎宣秋同三男内記宣俊等始テ兩君

二 謁ス

一同玉虫次郎左衛門繁茂公ノ命ニ依

テ召シ出サル同年参議忠長主ニ附属

セラル

此  
子  
年  
八  
十  
八

